

夏に流行る感染 (6月～9月)

平成28年6月7日
足利両野保育園
看護師

夏は、プールや水遊びなど子どもたちが大好きな遊びがたくさんあります。しかし、暑いときにウイルスや細菌が活発になる皮膚疾患があり、プールに入れないかもしれません。代表的なものをまとめてみましたので、参考にしてお子さんのボディチェックをご家庭でお願いします。

咽頭結膜熱（プール熱）

感染している子が、目やにの出ていた状態でプールに入ることによってプールの水が汚染され、集団発生するそうです。このことから「プール熱」といわれています。

原因：アデノウイルス

症状：38～40℃の高熱

のどの痛みと腫れ。目の充血・目やに・結膜炎など。

※感染力が強く流行しやすい

対応：登園する際、『治療証明書』の提出が必要となります。
登園後より体調が良ければプールに入れます。



ヘルパンギーナ

夏かぜの代表的なもの。

原因：コクサッキーウイルスなど数種類

症状：39～40℃の高熱、のどにできる水疱。

(水疱がつぶれると、痛みのため唾液を飲むのも辛くなり、よだれが多くなったりします)

脱水症状に注意が必要！

対応：熱がなく、普段の食事が摂れたら集団生活に差し支えありません。登園する際、『登園届』が必要です。プールに入れます。

※但し、よだれが出ている状態では、プールには入れません。



伝染性軟属腫(水いぼ)

原因：伝染性軟属腫ウイルス

症状：直径1～3mmくらいの水を含んだ湿疹。

脇の下、脇腹、首、ひじ、膝などにできやすい。

痒みを伴う場合があります。

対応：プールに入れます。(特に、証明書等の提出はありません)

※但し、湿疹が潰れていたり掻きむしりがあった場合は、プールに入れません。



水いぼ と プール

数年前までは積極的な治療をお願いし、治癒後プールに入ることが出来ました。
H25年度日本臨床皮膚科医会・日本小児皮膚科学会の統一見解の発表により
「自然に治る湿疹」の為、治療しなくてもプールに入ることが出来ることになりました。
但し、タオル、浮き輪、ビート板などを介してうつることがあるため共用しないよう
心掛けプールに入ります。
また、接触感染の為にうつしたり、うつされたりなどの場合があります。
園内でも注意をしますのでご理解宜しくをお願いします。

手足口病

原因：エンテロウイルスなど数種類

症状：水疱性の発疹が口のまわり、口の中、手のひらから腕まで、足の裏からヒザしたあたりまで現る。発熱は軽度ある。口内炎がひどくなりよだれが出たり食事がとれないことがあります。

対応：普段の食事が摂れていたら集団生活に差し支えありません。

登園の際、『登園届』が必要です。

プールは、水が媒介となり感染する場合があります、無菌性髄膜炎の原因の90%を占め、稀に脳炎を伴った重症になることもあるため入れません。

伝染性膿痂疹（とびひ）

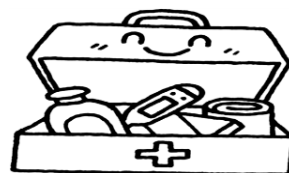
伝染性が強く、皮膚のあちこちに飛びように広がっていくことから「飛び火」といわれています。

原因：黄色ブドウ球菌や連鎖球菌

ムシ刺され、ケガの傷、あせも等を掻いてそこから感染します。

症状：強い痒みのある水疱

水疱がつぶれると、ジュクジュクとした液がでます。



対応：プールの参加はできません。（特に、証明書等の提出はありません）

大切なこと

- 早めに病院を受診しましょう。
- 範囲が小さいときは、ガーゼで覆って登園してください。
- 体のあちこちに広がった時、また、ガーゼで覆えない時は、休んだ方が望ましい場合もあります。ご協力・ご了承おねがいします。